

「チャレンジする中小企業 アシストする中小企業診断士」

診断かがわ

2017年 初秋号 NO. 69号

(2017年9月9日発行)

[主要目次]

- ◆ 第6回通常総会・・・・・・・・・・ 1
- ◆ 経営支援業交流会・・・・・・・・・・ 2
- ◆ 後継経営者養成講座・・・・・・・・・・ 3
- ◆ プレゼンテーション技法の向上策・・・・ 5
- ◆ 会員だより（村上会員）・・・・・・・・ 6
- ◆ 会員だより（岡崎理事）・・・・・・・・ 7
- ◆ 新入会員自己紹介①（岩本会員）・・・・ 8
- ◆ 新入会員自己紹介②（大倉会員）・・・・ 9
- ◆ 新入会員自己紹介③（岡見会員）・・・・ 10
- ◆ 新入会員自己紹介④（高橋会員）・・・・ 11
- ◆ 新入会員自己紹介⑤（高井会員）・・・・ 12
- ◆ 新入会員自己紹介⑥（前田会員）・・・・ 13
- ◆ 新入会員自己紹介⑦（三谷会員）・・・・ 14
- ◆ 新入会員自己紹介⑧（三好会員）・・・・ 15
- ◆ 新入会員自己紹介⑨（山口会員）・・・・ 16
- ◆ 新入会員自己紹介⑩（横井会員）・・・・ 17
- ◆ 県協会フェイスブックページ・・・・・・・・ 18



管理者課題別研修

「プレゼンテーション技法の向上策」

(2017年7月1日)

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会

〒761-0301 香川県高松市林町 2217 番地 15 香川産業頭脳化センター402号

TEL 087-814-6456 FAX 087-840-0321

ホームページ <http://www.shindan-kagawa.org>

メールアドレス mail8@shindan-kagawa.org

発行人 会長 山下 益明

編集人 広報企画事業部 梅澤 秀樹

“ “ 立川 敦史

“ “ 溝渕 善彦

“ “ 森 昭博

第 6 回 通常総会

第 6 回通常総会が 2017 年 6 月 10 日(土)16:00 より、サンポートホール高松 64 会議室において行われました。

議事は以下の通り無事に進行しました。会員移動状況では、2017 年 6 月 10 日現在の正会員数が 60 名(休会 2 名除く)となったことが報告されました。

また総会に先立ち、同会場で「県協会活動オリエンテーション研修」(2010 年 3 月 1 日以降の入会者を対象)が開催され、近年の会員増加傾向を受け大盛況でした。

- 議案 2016 年度事業報告書、収支計算書および貸借対照表承認の件
- 報告 2017 年度事業計画および収支予算決定の件
- その他 一般社団法人 中小企業診断協会(本部)の動向について、連絡事項



参加者集合写真



「経営支援業交流会」に参加して

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
会員 山下 晶子

日頃、中小企業の経営支援を行っている「ITコーディネータ」、「経営士」、「税理士」、「中小企業診断士」四士業の有志約40名が集まり、初の「経営支援業交流会」が4月8日(土)に開催されました。

まずは、発起人の一人である山下益明会長より、本交流会の目的について、「中小企業に対する経営支援の将来についてまじめに考えていく。視野を広げ、刺激を受けるとともに役に立つ人脈を広げる」とお話があり、引き続き香川県中小企業診断士協会での取り組みなどについて説明がありました。

つぎに下記士業の代表の方々より、各団体の成り立ち(歴史)や専門分野、活動内容、課題、今後取り組むべきことなどについて講話があり、普段聞くことのできない他士業の方々の実情や今後の中小企業支援のあり方など、多岐にわたる大変興味深いお話を聞くことができました。

ご講話いただいた、各代表の方

- 日本経営士会 四国支部 岩井美喜夫氏
- ITCかがわ 会長 中庭正人氏
- 税理士法人 六条 代表税理士 尾崎健一氏

その後、山下会長の進行による「経営支援業の基盤を築くために～お客さまから選ばれるプロフェッショナルを目指す～」をテーマに、ワールド・カフェ方式にてグループに分かれて意見を出し合いました。中小企業支援のベテランの方や若手の方、各士業によっても角度の違う意見や普段考えている疑問など、どのグループも真剣に意見を出し合い活発なグループワークとなりました。

引き続き行われた懇親会も一次会、二次会…と大変盛り上がり、話は尽きないようでした。新しい出会いもあり、大変有意義な交流会でした。

今回参加されなかった方も、ぜひ次回はお参加ください。



後継経営者養成講座を受講して

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
会員 大倉 央嵩

＜講座概要＞

- 5月13・14日 第1・2講「経営・管理の基本」
- 6月18日 第3講「計数の基本」
- 7月9日 第4講「マーケティング戦略の基本」
- 8月6日 第5講「人事戦略の基本」
- 9月18日 第6講「財務戦略の基本」
- 10月15日 第7講「成果発表会」

はじめまして。「後継経営者養成講座」に参加させていただいております、丸善織物株式会社の大倉央嵩(おおくら ひろたか)と申します。簡単な自己紹介をさせていただきますと、私自身は今年で30歳になります。弊社は従業員が60名ほどで製造業をしており、今年で65歳を迎える父が現在社長をしております。

今回、弊社にきてくださっている経営コンサルタントの先生から、「同じ境遇にある後継経営者の人たちが参加する」とお伺いしました。普段そういった人たちとかかわることがあまりありませんので、今後の人脈を広げたかったのと、どのような考え方が必要なのかを身につけるため、参加させていただきました。

中小企業では、人・物・金・ノウハウなどの資源に限りがあります。そういった中で、会社の「あるべき姿」を目指すために、今何が必要なのかを認識する必要があるかと思えます。今までは、会社へ入社して間がないこともあり、従業員側の立場での考え方をすることが多くありました。今後は経営者側での考え方に切り替えていく必要性があります。

今回の講座では、経営者として必要な知識や考え方を学ばせていただいております。

先生方の説明がわかりやすく腑に落ちやすい言葉で説明してくださるので、とても助かっております。こういった場で学んだことを従業員へアウトプットすることもあるかと思いますが、学んだことを伝える時に伝わらないもどかしさが生じることが多いかと思えます。専門用語をかみ砕いてスッと入ってくる説明をしてくださるので、「さすがプロの方々だ!!」と日々感激しております。

また、他の経営層の方々や専門家の方を交えてお話することができ、周りの人たちがどのような考え方や悩みを持っているのかを知ることができます。その時気になったことを質問・相談できる環境ですので、非常に有意義な時間を過ごすことができていると感じております。

REGISTERD MANAGEMENT CONSURUTANT REPORT

普段業務上のかかわりがある人や従業員に対しては、立場的にやはり一步引いて話をし
てしまいます。かといって、友人などに相談しても、立場が違うこともあり、なかなか理
解されないことも多いのではないかと思います。似たような立場の人たちと意見の交流が
でき、今回の経験を機に、今後そういった場所へはできるだけ多く参加できるようにした
いと感じました。

今回の講座の内容で印象に残っている内容を一つ上げさせていただきたいと思います。

山下会長が講義中や懇親会の席でよく仰ってました、「人それぞれ」という言葉が強く印
象に残っております。多少の解釈の違いがあるかもしれませんが、「何を一番大切にするの
かは人それぞれ違うのだから、それぞれの意見を尊重しなさい」という内容だと私は解釈
しました。

私自身、昔から「自分の考え方が正しい!」と思って突っ走ってしまうタイプだと周りか
らもいられていますし、自分自身でも自覚しております。しかし、個人ではなく企業とい
う集団活動の中で企業を導いていくためには、周りの従業員を尊重するとともに、正しい
意思決定を行える経営者になる必要があります。

現段階での個人的な思いになりますが、いずれ経営側の立場になった時に、従業員と同
じ目標へ向かって全社一丸となり走り抜ける企業へしたいと考えております。

また、退職するときに「丸善織物で働けて良かったです」と、本心からいってもらえる
企業へしたいと思っております。そのためにも、人それぞれ大切なことを尊重し、共に成
長できる関係を築いていくことが大事ではないのかと思いました。

今回の講座でさまざまなことを感じ、学ばせていただいております。今回の講座の内容
だけでなく、日々の生活から得たこと感じたことを私自身の中だけでとどめるのではなく、
従業員と共有し、今後の企業発展につなげていけたらと思います。



第1講で熱心に耳を傾ける受講生



懇親会の様子



プレゼンテーション技法の向上策

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
会員 松尾 隆志

2017年7月1日(土)に開催された今井豊治先生による管理者課題別研修「プレゼンテーション技法の向上策」に参加してまいりました。

受講の目的は二つで、一つはズバリそのまま、苦手なプレゼンテーションを勉強するためです。現在は企業内診断士として主に営業を行っており、新規取引先獲得のためにも必要なスキルです。もう一つは講師の仕事を勉強するためです。将来は経営コンサルタントとして独立を目指しており、講師の仕事もやってみたいと思っています。

さて、今回は公演・セミナー講師歴30年の今井先生が20年以上継続中の研修ということもあり、即実践で活用できる技法を伝授していただきました。

主な内容は次の三つです。

①プレゼンテーション技法習得の心構え

プレゼンテーションとはどういうものかを知り、まずその難しさを理解しました。そしてそれは「技術」であり訓練で上達するということを学びました。

②プレゼンテーションの上位概念「コミュニケーション」成立の4要件

前提条件やコミュニケーションとプレゼンテーションの関係性、そしてコミュニケーション技法向上の心得を学びました。

③プレゼンテーション技法向上の具体策

具体策として、テーマの把握、ストーリーの組み立て方、プレゼンテーションの仕方を学びました。

この研修では基本から応用まで幅広いスキルを教わりましたが、実戦で最終的に重要で必要不可欠な要素は「熱意」である、ということがわかりました。また、受講の目的の一つである講師の勉強においてもお手本となるものが数多くあり、充実した一日となりました。ここだけの話になりますが、研修の最後に今井先生からプレゼンテーションの極意を聞くことができました。

今回参加できなかった皆さま、次回はぜひ参加してみてもはいかがでしょうか。



研修の様子

会員だより

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
会員 村上 潔

会員の皆さま、お久しぶりです。お元気でしょうか。私も何とか元気で過ごしております。仕事の方はもうすぐ 69 歳を迎えるために、断れない仕事だけをして、抑えております。

さて今年の夏といえば、私にとっては“非常に暑い夏“といえます。今年は母校である三本松高校が、24 年ぶりに夏の甲子園出場を決めました。1984 年・1993 年に続いて、3 回目の出場となりました。

初出場の際は、応援バスで応援に行き、かちわり氷を手に、暑いアルプス席で応援しましたが、東海大甲府高校に、力負けしたのが思い出されます。2 回目の出場の際は、長男が 2 年生として応援に行きましたが、市立船橋高校に惜敗しました。1988 年には、従姉の息子の川畑勇一君(元ヤクルトスワローズ)が、4 番キャッチャーとして決勝で戦い、坂出商業に 3 対 2 で惜敗、一緒に応援に行っていた従兄弟らと、がっかりしたこともありました。

今年は初戦で初めて下関国際大学付属高校に勝ち、念願の甲子園初勝利をあげました。地元ではこの勝利で、ますます盛り上がっております。

初戦は都合でいけませんでしたが、18 日の 3 回戦には応援に行く予定にしております。なんとか勝って欲しいと思っています。

これから残暑が続いていきますが、会員の皆さま方におかれましては、お体をご自愛いただき、毎日のお仕事に頑張ってください。



3 回目の出場を果たした三本松高校



念願の甲子園初勝利



会員だより

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
理事 岡崎 進

今回、香川県中小企業診断士協会より「会員だより」の執筆依頼をいただきましたので、簡単な自己紹介と近況報告をさせていただきます。

私は 1968 年 3 月に山口県宇部市に生まれ、現在 49 才です。高校卒業までは山口県宇部市で過ごし、その後、岡山大学に進学するため岡山県岡山市に移りました。そして大学卒業後は株式会社TKCに入社し、自身がちょうど 40 才の時に退職して、本格的に中小企業診断士の資格取得を目指し始めました。

それから運よく 2010 年 3 月に診断士登録、同年 6 月に当協会へ入会、翌 2011 年 4 月に独立開業いたしました。開業から早や 7 年目を迎え、事務所は香川産業頭脳化センタービルの 3 階に構えております。現在に至るまで決して順風満帆ではありませんでしたが、いろいろなご縁をいただいて今があります。この場をお借りして、皆さま方には心より感謝申し上げます。

開業当初はまず地元の香川県内でしっかり経営支援していこうと思っておりましたが、ありがたいことに今では愛媛県西予市、高知県四万十市にもお客さまがいらっしゃいます。双方とも毎月何回か訪問していますが、日帰りしようと思うと(両社とも)車で片道約 4 時間かかりますので、自身 50 才を目前にして身体的になかなか辛い時があります。ですので、訪問時はなるべく宿泊するように予定を組むのですが、そうなるとお酒が好きなもので、夜はお酒を飲みながら地元の名産品を食べたくなるんですね。「せっかくだから」という訳のわからない理由をつけて。

そこで少しご紹介いたしますと、愛媛県西予市では「鯛皮ちくわ」というものがあります。名前の通り、お魚の鯛の皮で作られたちくわなんですけど、味も食感も日本酒なんかにはピッタリな一品です。その西予市から車で 30 分行ったところには、“鬼のまち”といわれる鬼北町というところがありまして、そこでは珍しい雉のお肉が食べられます。いろいろな部位のお肉を焼き肉やすき焼きなど、普通の鶏肉と比較するとお値段は少し高めかと思いますが、旨味がギュッと濃縮されている感じで非常に美味しいお肉です。

続いて高知県四万十市では、四万十川で獲れる川エビ「四万十エビ」のから揚げがビールに最高に合います。香ばしさや味は、海のエビとはまた違った美味しさです。それから一般的に流通している海で獲れる海藻ではなく、四万十川で獲れる海藻もありまして、それを天ぷらで食べると肉厚で風味も良く、これも非常に美味しい一品です。

食レポのようになってしまいましたが、近況報告になりますかどうか恐縮です。お近くにいらっしゃった際には、ぜひ一度お召し上がりください。

これからも引き続き、ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。



新入会員自己紹介

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
会員 岩本 大輔

皆さま、はじめまして。このたび、2017年4月をもって、香川県中小企業診断士協会に入会させていただきました、岩本大輔と申します。

中小企業診断士の資格との出会いは、大学在学中に目にした「ちょっとした案内」に遡ります。～「診断するといえば「医師」、つまり「企業ドクター」なんです～といったキャッチフレーズだったと記憶しています。

当時、経済学部在籍していたので、出題内容が関連していたせいか、親近感を感じたのはよく覚えています。それまで陽気な学生生活を過ごしてきた分、何か資格でも取って、学んだ軌跡を残しておきたいと考えていた時期に目を引いたのかもしれない。そういった中、就職活動が本格スタートしました。OB訪問や面接を重ねていく中で、中小企業診断士に関しての話題に触れると、

「資格勉強よりも学生生活を充実すべきじゃないの？」・・・(そりゃそうだな！)

「社会人として1人前になって必要なら取ったら？」・・・(その通り！大人な意見！)

との「外部反応」でした。陽気な私は(都合よく解釈)し、学習に着手することすらなく、流されていってしまうのでした。

その後、銀行で勤務し、さまざまな経営者の方々とお話しさせていただく中で、起業意識が高まりました。そして、29歳で第1創業を実現しました。当初は勢い95%の経営スタイルでした。しかし、人を雇用し組織として成長していくためには、私自身が経営者として、成長軸となる知識や考え方が必要だと強く感じるようになったのです。書籍や単発セミナー等で陥りがちな「単なる受け売りの知識や考え方のわかったつもりではなく」です。

思い立つこと15年目。中小企業診断士の学習に充てた原動力はそこにあったと思います。平日の朝夜各2時間、日曜は丸1日。専門職大学院へも通学し、MBA取得。その中で自社や私自身の成長のためだけでなく、これまでの経験も踏まえて、さまざまな企業の支援に携わりたいという思いが強くなってきました。

そして今、役職員の成長と貢献、家族の支えに感謝しながら、39歳で第2創業を実現し、真っ新たなフィールドに立つことができます。

陰陽でいうならば「陽」であるのが私の長所です。皆さま一人ひとりとの出会いを大切に、また「期待される」存在となるために「勇往邁進」する所存です。そして、香川県協会の中でもピカイチの「陽」でありたいと思います。何とぞよろしく願いいたします。



新入会員自己紹介

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
会員 大倉 央嵩

はじめまして、大倉央嵩と申します。今年の頭に学科試験には合格し、現在実務補習中の身ですが、先生方の勧めもあり、2017年2月に一足先に準会員として入会させていただきました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

1987年生まれで小さい頃から香川県善通寺市で育ってきました。大学は兵庫県の大学に進学した後、卒業とともに香川県にUターンして、家業に従事しています。

業務内容としましては工業用の繊維製品を加工しております製造業でして、3年ほど製造現場で経験を積ませていただいた後、現在は営業職に従事しております。父が経営者でして、後々は会社を後継する予定です。

趣味は今年からゴルフをはじめました。大学卒業後スポーツをする機会があまりなかったので、これを機にジム通いも始めました。ゴルフを始めて半年ほどたちましたが、いまだにドライバーは飛距離も出ずまっすぐ飛びませんが、人生はまっすぐ長く生きられるように頑張っていきたいと思ひます。

中小企業診断士を目指したきっかけは、会社に入社し1年ほどたったある日、「将来的に会社を経営する側の立場となった時に今の自分の知識や経験では足りないのではないか」と考えたためです。そんなことを思ひつつ、日々漠然と現場での作業をしていた時に、やはり自分の中での不安感が払拭されず、どうしたら解消されるのかを考えた際に、以前から知っていた中小企業診断士の勉強をしようと思ひました。

キャリア的な面では諸先輩方には遠く及びませぬし、知識的な面でもまだまだ不十分だとは感じております。ただ、以前よりは将来のことに関して不安のようなものを感じることも減り、日々の業務の中でも物の見方が変わったと感じることも多く、診断士を志してよかったと感じております。

現在、弊社には県協会の先生がきてくださっていますが、なぜ経営者が専門家の先生方を頼るのかを考えたときに、知識やそれまでのキャリアに裏付けされたアドバイスが欲しいからだと思ひます。私自身はまだ未熟者で、日々学ぶことのほうが多いですが、今後はインプットしたものを自社に提供していくとともに、皆さまに負けないくらいの専門性を有した知識を身につけ、現在の厳しい経済状況の中100年200年と続く企業をつくることを目標としてやっていきたいと思ひております。

企業内診断士としての活動がメインとなると思ひますが、県や協会の仕事も登録後は出来る範囲で参加させていただきたいと思ひております。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



新入会員自己紹介

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
会員 岡見 育利

はじめまして、この度、香川県中小企業診断士協会に入会いたしました、岡見育利(おかみ いくとし)と申します。よろしくお願いたします。高松市出身で大学卒業後に高松市に本社がある建機メーカーに就職し定年まで勤務しました。現在の住まいは東京で、診断士の登録は2016年3月に東京協会でしたが、出身地で今も実家のある香川県の発展に貢献できるようになりたいと考え、香川県協会に入会いたしました。

診断士を目指したきっかけは、数年前に健康診断時のバリウムが残って腸が破裂して腹膜炎を起こし、何日間も生死の境を彷徨って奇跡的に助かったことにあります。約半年後には再手術で人工肛門を閉鎖し元通りの健康を取り戻したのですが、その間に会社という組織は変化しており、自分の在り方を見直さなければならないという状況になっていました。それまでは「会社人間」で、土曜も日曜もなく、平日夜は終電まで仕事をし、航空機搭乗回数だけでも年間120回もの出張というほど仕事にのめり込んでいました。これからの自分に何ができて、何を目標として生きていくかを考える大きな契機となりました。

当初MBAの取得を考え、数校の説明会などに参加していましたが、既にMBAを修了し経営コンサルタントをしている妻から「中小企業診断士の資格を取ったらどう？」と勧められました。その時ふと、30年近く前に他界した父が40年ほど前に中小企業診断士を取得していたことを思い出しました。「そうだ、中小企業診断士を目指そう！」そんな単純な動機から診断士への第一歩が始まりました。

診断士に登録してからまだ1年数カ月ですので、専門分野をあえて絞らず製造業から商店までどんなことでも取り組んで、診断士としての幅を広げたいと思い活動しています。

会社勤務時代は営業部門が大半でしたが、敢えて自ら買ってくださいとはいわないことを心がけていました。お客さまが、より収益を上げるにはどうしたら良いかアイデアを出そうと、格好をつけていうと新しいビジネスモデルを構築しようと、時には時間を忘れて深夜まで眠い目を擦り缶コーヒー飲みながら一緒に話し合うその時間そのものが、とても楽しかったのです。これがコンサルティングの原体験だといえるかもしれません。診断士として中小企業の支援や助言をして、少しでも経営改善や経営革新にお役に立てたらと思っております。

メールの文末にメッセージとして“MOBILIS IN MOBILI”とサインを入れています。これは海底2万呎の中に出てくるラテン語の銘句で、「変化を以って変化をもたらす」という訳になるそうですが、経営学的に変換して「変化する外部環境を分析予測し、先手を打ったマーケティング活動、企業改革を行う」といった意味を込めて使っております。

これから香川県でも活動していきたいと考えておりますので、先輩会員の皆さまのご指導を賜りたく存じます。何とぞよろしくお願い申し上げます。



新入会員自己紹介

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
会員 高井 美帆

はじめまして、2017年4月に香川県中小企業診断士協会に入会させていただきました高井美帆と申します。現在は高松市内の税理士事務所に勤めております。

私が中小企業診断士の資格取得に取り組み始めたのは、10数年を一般企業の総務経理として実務経験を積むうちに、もっと経営者の役に立てる総務経理として実力をつけたいという思いが生じたことがきっかけでした。その後、税理士事務所に転職した際、スタッフの皆さんが本当によく勉強されていて刺激を受けたことも、モチベーションを持続させてくれました。

税理士事務所に勤め始めた当初は、資格取得のための勉強を通じて信頼される総務経理に成長し、再び一般企業に戻ろうと考えていました。しかし、いざ診断士試験合格まで到達した頃には、むしろ税理士事務所の立場の方が、直接経営者と深く関わり喜びを感じることができるのかもしれないと方向を変え、現在に至ります。

税理士事務所で顧問先さまのお役に立ちたいと励む中、子どもの学校で職業意識を育成する授業があったことも、自分の仕事の質について意識を高める機会になりました。「何に喜びを感じるのか」「この仕事のやりがいは」「最も大切に考えていることは」といった質問に、改めて自分の仕事を深く掘り下げて考えました。その質問を投げかけてきた息子は、商業系の高校から大学の経済学部に進学しようとしています。私と同じような仕事も悪くないなという彼と、授業の内容について話すことも私には刺激的で、彼にがっかりされるような仕事はできないなと思いを新たにしています。

診断士として入口のドアを開いたばかりで、日々、実力の足りなさを痛感しており、“緊張しい”な自分の性格的にも大変な道に踏み込んでしまったと思うところもあります。

まだまだ未熟者ですが、協会や先輩診断士の皆さまのご指導をありがたく感じ、これまで通り地道に努力を積み重ねて、誠実で信頼できるコンサルタントとして少しずつ成長していきたいです。皆さま、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



新入会員自己紹介

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
会員 高橋 国男

はじめまして、高橋国男(たかはし くに)と申します。香川県観音寺市に生まれ、大学時代は大阪で過ごしましたが卒業後、観音寺商工会議所に就職し現在に至ります。2016年度中小企業診断士試験に合格したばかりで、まだ要件を満たしていないため診断士登録ができておりませんが、2017年6月より入会させていただきました。

商工会議所においては、約10年前より経営指導員として地域の中小企業の方々への相談および支援業務を行っております。支援の内容は、企業の現状分析に始まり、課題の抽出、事業計画や経営戦略の策定からアクションプランの実施、税務や資金繰り、補助金等の相談、時には家庭やプライベートの相談までと多岐にわたります。民間企業へ勤めた経験もなく、専門知識があるわけでもない私が経営支援を行うことに後ろめたさを感じることもありましたが、拙い私の支援でも必要としてくれる方がおり、それが業績の向上につながった時はこの上ない喜びを感じます。

私は学生時代から特段の夢もなく、現在の職に就いてからも将来の目標もなく過ごしていましたが、数年前頃から漠然と、今のままではいけない、何かしなければいけないと考えるようになりました。そんな時、ある講演会で「夢のないやつは目の前の人を幸せにする!」という言葉を見ました。それならできるかもしれないと思い、とにかく目の前にいる、私を必要としてくれる方を幸せにすることを目標として仕事に取り組み始めました。そうしていると、少しずつではありますが、これまでとは違った感謝の言葉や評価をいただけるようになり、仕事にやりがいを感じるようになりました。

そして、さらにお役に立つためにはもっと知識を広げて実践を積み、支援能力を向上させなければならないと思い、中小企業診断士の学習を始めました。試験にはなんとか合格することができましたが、まだまだ能力が向上したという実感はありません。

これからも学習を怠らず、謙虚さと誠実さを大切にし、「目の前の人を幸せにできる診断士」を目指してがんばっていきたくと思います。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



新入会員自己紹介

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
会員 前田 剛

皆さま、はじめまして。2017年4月に入会いたしました前田剛(まえだ つよし)と申します。現在、京都に住んでおり、京都の協会にも属していますが、実務補習で一緒だった診断士仲間から“周りの協会はおもしろい”と聞き、実家があり、高校生まで過ごした香川県でも入会させていただきました。入会后、総会や後継経営者育成講座にオブザーバー参加させていただきましたが、オープンで一体感のある協会で、非常に幸運な出会いだと感じています。

私は、大学卒業後、関西の電機メーカーに就職し、今では見かけることのないブラウン管の生産技術部隊の一員となりました。ここでは、ブラウン管の生産方法や条件設定、工場改善(生産性向上・歩留低減)、海外での新ライン立上げ等、ほとんど工場の中で過ごしました。同じ会社の工場の支援とはいえ、まずは外部として現場に入り、目標達成に向けて協働で取り組むという経験をしたことで、コンサルタントに興味を持ちました。海外での新ライン立上げも一段落したこともあり、転職を決意し入社から約5年で退職しました。

その後、1年程、ニュージーランドに寄り道した後(20代なら転職できるだろうと安易な考えもあり…)、コンサルティングファームに転職しました。それから、コンサルタントとしての経歴が始まり、製造業、工事会社、電力会社の事業再構築や効率化、組織力向上等の支援に13年間、従事しました。この間に、幅広い知識の必要性を感じて、診断士を目指し、資格取得を機に、2016年10月に独立、起業しました。

これまで、組織のなかでもがきながら、貢献しようと努力されている方に何度も出会い、一方で、そういった方々の努力を無駄にする組織にも出会いました。今後は、同じように健全に努力されている方々を「謙虚」かつ「良い加減」をモットーに、企業の大小を問わず、ご支援していきたいと考えています。

皆さまとの出会いを大切に、日々精進していきます。皆さまのご指導、ご鞭撻のほど、何とぞよろしくお願いいたします！



新入会員自己紹介

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
会員 三谷 利恵

皆さま、はじめまして。2017年4月に香川県中小企業診断士協会に入会させていただきました三谷利恵と申します。大学院(情報工学)修了後、子供服メーカーの企画部門に7年、通販会社に1年、経営コンサル会社に9年勤務後、診断士試験に合格した2年前より税理士事務所に勤務しております。

コンサル会社に勤務する前は、中小企業診断士のことを新聞等で知っていましたが、あまり身近な存在ではありませんでした。しかし、コンサル業務を進めるうえで診断士の知識・経験が重要になってくることから、コンサル会社の同僚と診断士試験の勉強を始めました。また同僚の診断士や、仕事で一緒する診断士に魅力的な方が多かったことも、受験を決意した要因の一つです。一緒に受験を開始したメンバーでは、私が一番遅い合格で、恥ずかしながら登録までに10年も費やしてしまいました。

長い試験勉強の過程で経営理論や中小企業の動向等を勉強した際、顧客に接する際に思い出すのは、実家の八百屋のことです。私の名前の「利(益に)恵(まれる)」は、事情で急きょ跡継ぎ娘となった母が、婿養子となる父と見合結婚し、事業を一生懸命継ごうとした証です。しかし、数年後父母は事業から外れることとなり、その後も祖父母が事業を運営していましたが、現在は廃業しています。もし身近に診断士がおり、適切なアドバイスを受けていれば、事業が続いていたのでは…と思うことがあります。

人生も、事業も、いい時と悪い時の波があります。今後、診断士としては、ご支援企業・経営者・社員に寄り添い、事業の波に合った適切なアドバイスができるように、まずは自分自身の研鑽に努めていきたいと考えています。

まだ、入会してから日が浅いですが、香川県中小企業診断士協会のアットホームな雰囲気と、皆さんの親切なご対応が、ありがたいと感じています。

諸先輩方、今後も引き続き、ご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。



新入会員自己紹介

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
会員 三好 純

今年4月に高松に転勤となり、香川県中小企業診断士協会に入会しました、三好純と申します。よろしくお願いいたします。

現在は、金融機関で中小企業の皆さまを対象に、融資や情報提供の仕事をしています。また、直前は、国際関連部署で、海外展開(海外での生産や販売等)のご支援、お手伝いをしていました。

診断士の資格は、仕事柄、会社が奨励していたこともあって、1995年に取得しました。初めて自分の名刺に「中小企業診断士」の資格名が入った時には、非常に嬉しく誇らしい気持ちになったのを憶えています。

診断協会には、当初、東京協会に入会しましたが、途中、転勤に伴って大阪、静岡、高知にも所属しました。大阪ではサプライチェーン研究会に所属し、理論政策更新研修の際にはパネラーとして参加する機会も得ました。またここ数年は、東京協会主催の商店街や個別企業の診断に参加しています。

それらの活動の中で感じたのは、診断士は、お客さまとの距離が非常に近く、金融機関とは異なる視点、立場で密接に関わっているということです。それだけにお客さまの目も厳しく、個別企業診断の際には提言等に納得してもらえず、厳しい言葉をいただいたこともあります。これは金融機関の立場では味わえない貴重な経験(真剣勝負)ですので、これからも機会を見つけて参加したいと考えています。

香川県の印象ですが、こちらは独自の技術・製品により、特定の分野で活躍している企業が多いように感じます。また、自ら経営の師を探して勉強するとともに、経営計画の作成等を通じて従業員教育にも力を入れる真面目な経営者が多いと思います。今後できれば、そういった中小企業の方から幅広くお話を伺い、さまざまな取り組みについて勉強していきたいと思っています。

また、協会の活動についても積極的に参加したいと考えていますので、その際には、いろいろとご指導、ご教示くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。



新入会員自己紹介

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
会員 山口 真徳

はじめまして。2017年1月に香川県中小企業診断士協会に入会させていただきました、山口真徳(やまぐち まさのり)と申します。1987年生まれの30歳です。地元香川の金融機関に約7年間勤めた後、昨年、公益財団法人日本生産性本部にて中小企業診断士養成課程受講のため東京へ引っ越すのを機に退職しました。現在は、中小企業診断士養成課程を修了して、香川県の高松に帰ってきております。

私は前職の金融機関で渉外係として中小企業や個人事業主のお客さまを訪問する中、日々の資金繰りや業務等に追われ、現況から脱却したくてもできないという経営者の方々に多くお会いしてまいりました。債務超過や赤字等で業況が悪く、資金をお貸ししたくてもお貸しできない、または、仮にお貸しできたとしても各経営者が抱える問題の抜本的な解決につながらない。そんな現実に向き合う中で、今の自分では何も経営者の方々のお役に立てないと痛感いたしました。中小企業診断士の資格を知ったのは、そんなときでした。中小企業診断士の資格を取得することで、経営に関するノウハウや企業分析力等を身につけ、中小企業経営者の方々の相談窓口になることができると思い、中小企業診断士の勉強を始めました。

資格取得を通じて、知識や能力が高まるだけでなく、中小企業診断士をはじめ多くの方々と出会うことができ、自身の視野を広げることもできました。資格を取得するのに約5年かかりましたが、中小企業診断士を目指したことは今でも間違いではなかったと思っています。

現在でも中小企業に対する想いは変わっておらず、中小企業経営者のお役に立てるよう、今後も中小企業診断士の資格を活用していきたいと思っています。そのためにも、いろいろな経験を積んで努力し、自身を成長させていく所存です。

何とぞ、今後とも皆さま方のご指導とご鞭撻をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



新入会員自己紹介

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
会員 横井 道人

皆さん、はじめまして。2017年6月1日付けで新たに入会させていただきました横井道人(よこい みちひと)です。地域経済団体(坂出商工会議所)に勤務する48歳です。経営指導員として、地域経済の発展を目指し、日々努力しております。

目標であり憧れでもあった中小企業診断士の資格を取得してはや4ヶ月が経ちました。さっそく通常総会に出席して、懇親会で会員の皆さまとご一緒させていただき、おいしいお酒をいただきました。総会に先立って開催していただいた新入会員オリエンテーションでは、先輩方からの「診断士のあるべき姿」についての深い言葉に深くガッテンしました。これからも可能な範囲で協会の行事に積極的に参加していきたいと思っております。

私は約25年前、縁あって地元の商工会議所に就職しました。経営の知識など何もない、まさにゼロからのスタートでした。就職後、最初の仕事は「日商簿記検定3級を取れ」でした。普通高校出身で簿記の知識など何もなく、大変苦勞したことが今では懐かしく思い出されます。現在は、マル経融資制度(試験でも登場しましたね)の推薦書の作成など公的金融機関との橋渡し、小規模事業者持続化補助金など補助金・助成金の申請支援、労働保険の事務代行、人事労務管理のアドバイスなど経営・労務に関するさまざまな支援を担当しています。小さな商工会議所は事務分担も厳密ではなく、少人数で多能工化しなくてはならないので、とても大変です。

経営指導員として私に残された時間はあまり多いとはいえませんが、経営者と直に接する支援者として少しでもお役に立ちたいと考えています。そして、自ら解決することのできない高度な専門課題については、先輩診断士の皆さまなど専門家にしっかりつないでいくことが使命になります。商工会議所と診断士の先生方が経営支援の「車の両輪」として、今後ますます協働していくことができるよう、しっかり橋渡しをしていきたいと存じます。

皆さん、どうか今後ともよろしく願いいたします。

県協会フェイスブックページをご存じですか？

県協会の公式フェイスブックページはもうチェックされましたか。県協会事業のご案内やご報告、会員の活動などについて記事を掲載していますので、ぜひ、「いいね」(登録)および「シェア」(拡散)をお願いします。

香川県中小企業診断士協会

Facebookページ 受信箱 お知らせ インサイト 投稿ツール 設定 ヘルプ

香川県中小企業診断士協会
Facebookページのユーザー名を作成

一般社団法人香川県中小企業診断士協会の公式ページです

香川県中小企業診断士協会さんが写真4件を追加しました。
作成者: 廣崎 晋臣 (9) | 6月19日

6月18日、2017年度「後継経営者養成講座」第2講「計数の基本」が開催されました。
今回は、疲れた頭を癒すとともに、受講生、オブザーバー、講師との交流を深めるため、コースがイチ押し焼肉店で懇親の場を設けました。
この厚さながら、柔らかな食感がたまらないです。

リーチ214人 投稿の広告を出す

いいね! コメントする シェアする

香川県中小企業診断士協会さん、中井由郎さん、兵頭 正洋さん、他7人

コミュニティ すべて見る

- 友達にページへの「いいね!」をリクエスト
- 90人が「いいね!」しました
- 98人がフォローしています
- 片桐 操さん、他友達59人が「いいね!」しました

基本データ すべて見る

- 7610301 高松市林町
2217番地15 香川産業顕彰センター402号
- 0878146456
- メッセージを送信
- http://shindan-kaga... [ウェブサイトを表示](#)
- コンサルティング会社

これもおすすめ

- 平井料理システム 食品・飲料会社
- 高松西高9期同窓会 高校
- 四国労働金庫労働組合 非営利団体

日本語 · English (US) · Español · Português (Brasil) · Français (France)

診断かがわ第69号(夏号)

2017年9月9日発行

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会

〒761-0301 香川県高松市林町 2217 番地 15 香川産業頭脳化センター402 号

TEL 087-814-6456 FAX 087-840-0321

ホームページ <http://www.shindan-kagawa.org/>

メールアドレス mail8@shindan-kagawa.org

発行人 会長

山下 益明

編集人 広報企画事業部

梅澤 秀樹

“ ”

立川 敦史

“ ”

溝渕 善彦

“ ”

森 昭博